A-19 院内人工呼吸器の中央管理化に関して

名古屋大学医学部附属病院集中治療部

今枝　弘、桑山直人、堀田壽郎、武澤純、
島田康弘

＜はじめに＞名古屋大学附属病院の集中治療部はICU用病床7床と救急用病床1床の合計8床で運営されており、年間約700名の患者が収容される。本院全体の稼働病床は875床である。人工呼吸器の管理はICUにおいては臨床工学技師1名がセットアップ、保守点検等を行っている。病棟全体の人工呼吸器の数は病棟11台、ICU15台であり、合計26台ある。現在は病棟別に人工呼吸器の管理及び運営がなされている。

＜方法＞1989年から1991年の3年間について名古屋大学附属病院における人工呼吸器の使用状況をICUと病棟に分けて集計を行い、人工呼吸器の中央管理の合理性に関して検討を加えた。

＜結果＞院内人工呼吸器の1日平均使用台数は1989年はICUで5.2台、病棟で2.4台であった。1990年はICUで4.5台、病棟で1.7台であった。1991年はICUで4.2台、病棟で3.4台であった。一方、1日当りの最大使用台数は1989年はICUで8台、病棟で6台であった。1990年は、ICUで8台、病棟で7台であった。1991年は、ICUで9台、病棟で8台であった。また、3年間で1日の使用台数を見ると、1日7台が253日で最も多かった。病院全体での1日最大使用台数は16台という日が1日だけあった。また、89年～91年の3年間の人工呼吸器の修理費にかかった修理金額（オーバーホールを除く）は、病棟が173万円であった。ICUは12.3万円であった。1年毎の平均使用台数を見てみると、89年はICU5.2台、病棟2.3台、90年はICU4.5台、病棟1.7、91年はICU4.2台、病棟3.4台でICUが減っているのに対し、病棟は逆に増加していた。1991年に病棟での人工呼吸器の使用台数が多かったのは、MRSA感染等でICUを退室した患者が、長期間病棟で人工呼吸器を使用する機会が増えたことが原因と思われた。

＜考察＞名古屋大学病院において人工呼吸器の管理は、各病棟とICUとで分けて行っている。病院全体で考えると必要以上の人工呼吸器を持つと、維持費、修理費がかかる。病棟別の人工呼吸器管理では予算執行上の無駄が多く保守点検でも問題を残している為、人工呼吸器の管理に関しては、人員増加を伴った中央管理システムの構築が医療の質的向上のため必要と思われる。

	1989年		1990年		1991年	
(台/日)	ICU	病棟	ICU	病棟	ICU	病棟
平均	5.2	2.4	4.5	1.7	4.2	3.4
最大	8.0	6.0	8.0	7.0	9.0	8.0